長洲町立長洲小学校　校長便り　No.１２５

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年１０月１６日(月)

【雑感】

私の母は９人兄弟姉妹で、母方の従兄弟姉妹だけでも１８人いる。少年時代のお盆や正月はわたしたち兄弟も含め２０人の従兄弟姉妹が大騒ぎで走り回り、叱られながらも楽しい時間を過ごしたものだ。その中に１人だけブラジル在住の従弟がいる。母の兄、私の伯父にあたる３人は、戦後の食糧難もあり早い時期にブラジルに移住した。そして２人の伯父は帰国したが、一人はブラジルに定住したからだ。今まで２度会ったことがあるが、数十年振りとなることが多く、しかも言語は日本語とポルトガル語が入り混じる。

その従弟が息子２人を連れて１０月初めに来日した。従弟は５２歳、いい年だ。しかも、海外在住で縁遠くなるのは当たり前と思っていたが、中々どうして、当の本人は数十年振りとは思えないほどフレンドリーだった。私の伯父にあたる彼の父親が、何かあった時に日本の親戚を頼れるように、二重国籍という選択をしたのだそうだ。

彼は来日中に東京にも滞在したが、それ以上に西原村に長い時間滞在した。父親が遊んでいた自然を、心と体で感じたかったからだそうだ。その話を聞いていると、何か不思議な感覚になった。従弟のルーツは紛れもなく西原村のようだ。私は海外への渡航経験もなく、そのような感覚に羨しいのかもしれない。

「ブラジルに来い！」と従弟に誘われた。少しだけ心がざわつき始めた私澤田である。

経験則②「言動」

今日は「言動（言葉と行動、立ち居振る舞い）」について書いてみましょう。言動は相手に対する印象を左右します。低学年ではまだまだ語彙数が少なく、私たち大人との会話では意を尽くせない場合が多いですが、少しずつ語彙を獲得して、正しく論理的に相手に伝える術を身に付けていくのでしょう。そう考えると語彙習得は先生方の使命の一つと言えるのでしょう。でも、この低学年の言動が５年生や６年生で展開されていたらどうでしょう。そう言えば、朝の登校指導中や職員室での子供達との会話の中で、こんなことがありました。明らかに子供達に非がある場合、私達教師はその場で指導をします。指導はタイムリーなのが最も効果的だからです。でも、その指導を受けている子供達の言動について、たまに閉口する時があります。想像できますでしょうか、口をゆがませ不貞腐れた態度です。ご家庭でもありませんでしょうか、「駄々っ子」の表情です。また、こんなこともあります。教師が何か指導をしたとします。指導をした教師は当然しなければならなかった指導をしているのですが、子供達の中にはそれは拒否するような態度を示すことがあります。叱られたことのある先生＝嫌いな先生、あるいは苦手な先生となり、その先生の顔色を窺いながら行動するようになります。最悪の場合、先生によって態度を変えるようなことになります。これでは将来の社会生活に影響が出ることが心配されます。善悪を判断する力やコミュニケーションの力は現代社会の中で、かなり重要視される力ですからね。

高学年というと思春期の入り口であり、保護者としての接し方や担任としての接し方も難しい時期ではあります。しかし、それを放っておくと近い将来に影響が出ます。受験等が最も近い将来と言えるでしょうか。変化の激しい社会になったとはいえ、生身の人間同士のコミュニケーションは基本中の基本です。これがきちんとできるということが、大人への第一歩といえるような気がします。多少の「ヤンチャ」はあっても良いですが、因果応報という言葉を忘れないで、将来の自分を見つめた言動を心掛けて欲しいものです。とは言うものの、自分の小学校時代はどうだったかと思い出すと冷や汗ものです。言動に磨きをかけるためには、やはり国語の力を上げることが必要ですね。

シリーズ「自分を語る」#１２５

平成２５年度、南ヶ丘小学校でのバドミントン部活動改革がスタートしました。先ずはキャプテンを呼び、練習メニューを考えさせました。その際、何のための活動なのか、目標をどう設定するのか、部のスローガンをどう設定するか、３つの視点を持たせ、児童主体での活動がスタートしました。

子供達が考え、私が修正した活動の流れは、早い時期から定着しました。私が部活動に顔を出すとすぐに活動が開始され、充実した活動ができていました。注目すべきは、基本練習が後に設定された事でした。これまでの活動は、６年生の一部が基本練習やトレーニングをしたくないために、放課後すぐには来ず教室で時間を潰していたそうなのです。それに不満を抱いていた後輩たちが、トレーニングは後にした方が良いという結論を出し、練習メニューの改革を行ったのです。これがナイスアイデアでした。早く来ないとコート練習ができないため、放課後はすぐに部活に来るようになりました。そして、間接的な影響として各学級では宿題を忘れないようになったということが聞かれるようになりました。何故かというと、宿題を忘れると居残りとなり、部活動へ参加する時刻が遅れることとなり、結果コート練習ができなくなるからです。しかし、子供達は後半のトレーニングでもBGMを流す等の工夫をしていました。後半のトレーニングも段々と苦痛ではなくなっていきました。

良い具合に練習が流れるようになりました。それはそれで良いのですが、何もしないと状態はどちらかというと「停滞」ではなく「後退」しているかもしれません。これではいけないと思い、「何かしないと！」と心の中でモヤモヤが始まりました。私の思考は単純です。「担任教師時代にやっていたことを部活でできないか？」という名（迷）案が浮かんでいたのです。さぁ何をしようか？　先ずは…、そうだ「合宿」という名のキャンプをしよう！　思い立ったら即行動です。保護者会の会長さんに相談して、５月には準備を開始しました。場所は県立天草青年の家で実施し、活動内容はあまりバドミントンには関係がなく、宿泊教室そのものでした。１泊２日でしたが初日は海水浴とクラフト活動、２日目の午前中だけバドミントンという、まぁ、子供達にとっては楽しい２日間となったようでした。この２日間も私が狙った子供達に身に付けさせたい力は、自分から進んで動くこと、みんなと協力して活動すること、でした。考えてみると、今、長洲小で追い求めている「主体性」と「協働性」と重なっていますね。私の目論見通り、子供達は合宿の中で主体性、協働性を発揮し、学びも多かったと感じています。

さて、合宿は成功しました。何か無いかな～…。そうだ、アレがあるとっておきのアレが…。ヒヒヒ。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）